

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第77号

[2015年10月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第77号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

JAM×BRIDGE 合同活動報告会のお知らせ

ミャンマーにおける洪水被害に対する緊急支援へのお礼

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



## JAM×BRIDGE合同 活動報告会のお知らせ

日時： 平成27年11月7日（土） 13時～17時

場所： 国立国際医療研究センター内（新宿区戸山1-21-1）  
国際医療協力研修センター 3階 会議室

内容：

ビルマ/ミャンマー  
難民診療所  
現地派遣員 帰国報告  
(JAM)

+

活動報告(BRIDGE)

**JAM** は、平成26年7月より現地派遣員として活動してきた鈴木みどり看護師の帰国報告を行います。約1年にわたってメータオ・クリニックの現地スタッフに寄り添い、共に考えながら進めてきた鈴木看護師の活動をぜひお聞きください！また、タイ-ビルマ/ミャンマーの国境に暮らす難民・移民の現状についてお伝えします。

参加費： **無料**（懇親会あり 参加費：500円）

★参加ご希望の方は、

(1)氏名 (2)住所 (3)所属 (4)電話番号 (5)パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス

(6)懇親会参加の有無(7)JAM賛助会員の有無 をご記入のうえ、前日までにメールでご連絡ください。

メールタイトルに「活動報告会申込み」とお願いします。

[support@japanmaetao.org](mailto:support@japanmaetao.org)（担当：淵上）

★JAMの会員の方以外の参加も大歓迎です。海外支援、国際協力にご関心のある方、一緒に活動したい方、ぜひぜひお越しください♪

### BRIDGEとは...

2005年秋に国立国際医療センター（現：国立国際医療研究センター）で働く病院スタッフの有志によって設立されたサークルです。“国際協力を志す人同士が交流を広げる場”として、院内の医師、看護師が集まったのをきっかけに結成されました。年1回のスタディツアーや定期的に行う勉強会などを通して、国際協力への関心を高めるとともに、情報共有を図る活動を行っています。

詳しくはfacebook「BRIDGE in NCGM」へ！



## ミャンマーにおける洪水被害に対する緊急支援へのお礼

前回の会報でもお願いをさせていただいたのですが、7月から続いた豪雨によりミャンマー各地で深刻な洪水被害が発生しました。現在も、復興途上です。多くの住民の生活の糧である農作物への被害が特に深刻化しており、引き続き、被災者の生活を支える長期的な支援が必要です。



写真提供: Emergency Assistance and Relief Team (EART)

このような状況を受けて、メータオ・クリニック含む国境の支援団体は、Emergency Assistance and Relief Team (EART)として支援の窓口を開設しました。当会では、彼らの活動に賛同し、8月14日に10,000パーツの寄付を行い、また日本のみなさまからのご支援を届けるべく支援の窓口を開設いたしましたが、これまでに総額103,522円のご寄付を頂き、また現地の訪問者様からも5,000パーツのご寄付をいただきました。みなさまへのご支援のお願いは、9月30日をもちまして、いったん終了とさせていただきます。預かりました寄付金は、確実にEARTに届けさせていただきます、EARTを通じて被害にあったカレン州の人々の食糧、衣料品、日用品などの購入に充てさせていただきます。

本当にありがとうございました。

今後とも、当会ならびにメータオ・クリニックのことをどうぞよろしくお願ひします。

### 【本件に関するご質問・ご意見等の問合せ先】

メータオ・クリニック支援の会 (JAM)

URL : <http://www.japanmaetao.org/>

Email : [support@japanmaetao.org](mailto:support@japanmaetao.org) (担当: 前川)



メソトマンスリー

【メソト＝神谷 友子】



## 最近のメソット

8月25日よりメソトに滞在しております、現地派遣員の神谷友子です。

3年前に初めてメソト、メータオ・クリニックを訪問してから、JAMのメンバーとしてこの8月まで日本で活動していました。また日本では、薬局の医療事務を経て、看護師として一般病棟、障がい児（一般、整形外科）の病棟に勤務していました。

赴任したその週には、JAMで以前より支援していた学校保健評価の表彰式や、音楽交流プログラムのイベントがあり、その1週間後にはJAMスタディツアーもありました。この1か月の間にも、日本から数人、メソトやメータオ・クリニックを訪問された方がいらっしゃいました。この音楽交流のイベントには個人でご寄付頂き、大成功に終わりました。準備の段階からタイとカレンのこどもたちが一緒に練習をするなど、彼らにとって、とてもよい経験になったことと思います。参加した移民学校の先生や生徒たちからは、早くも来年の話が出ているほどです。今年もこのような素晴らしいイベントを開催できたこと、心より感謝申し上げます。



(写真1：学校保健評価の表彰式)



(写真2：音楽交流プログラム)

今メータオ・クリニック内では、前任の鈴木と同じ学校保健部門と、小児科病棟の二か所で勤務しています。JAMスタディツアーなどで今までにメータオ・クリニックには3回訪問したことがあるため学校保健のスタッフの数人は私のことを覚えてくれていて、とても温かく迎えてくれました。

小児科の病棟には、感染症や低栄養で入院しているこどもが多くいます。脳性麻痺があるために肺炎にかかりやすかったり、食事が上手に摂取できないこどももいて、日本での障がい児病棟勤務の経験を生かすことができるのではないかと思います。

先日、小児科病棟での患者さんのお母さんとの会話が印象深かったので紹介したいと思います。

彼女には3人のこどもがいて、今回入院しているのは末っ子の4歳の女の子です。夫は、酒や遊びで仕事もせず、家にお金を入れてくれないので離婚したそうです。服を販売しているという彼女は英語を話すことができるため直接コミュニケーションをとることができる数少ない患者家族の一人でもあり、病棟に行くと毎日挨拶や簡単な会話をしていました。女の





子は、元気なときはダンスしたり、歌ったり、手をたたいて笑顔で喜んだり、TVをみて笑ったりしていたそうです。でも私の知っているのは、自力で座することもできず、たまに痙攣をおこし、口から食べ物を摂取することができず常に鼻から経管栄養のチューブが挿入されて、酸素を付けている時間が長く、苦しうにベッドに横たわっている、そんな感じでした。はっきりは分かりませんが、おそらく高熱か何かで脳にダメージを与えられて、障がいが残ってしまったのではないかと思います。夜、一緒にベッドに寝ていても女の子が一瞬息をしていないととても心配になってゆっくり眠ることもできない、この子は生きていられるのか？死んでしまうのか？と母親に聞かれて、答えに詰まってしまいました。日本でだったらおそらく命を落とすようなことはない状態に見えました。まだ赴任して間もない頃で、メータオ・クリニックでこのような患者さんにどのような医療が提供されているのか、メディクたちはどのように考えているのかを知らなかったこともあり、彼女の回復できる可能性がどの程度なのか私には分かりませんでした。また、呼吸症状が落ち着いたとしても、女の子が今までのように口からご飯を食べたり、ダンスをするのはとても難しいように思えました。今までも調子が悪くなるとメソトの公立病院で治療を受けていたそうですが、治療費の支払いが困難で今はメータオ・クリニックに入院しているとのこと。母親は女の子の入院の付き添いで仕事ができず、お金がないそうです。メータオ・クリニックは無料で治療もご飯も出してくれるいい病院だと母親は言っていました。早く退院して仕事がしたい、いつ退院できるのか？と聞かれたこともありました。彼女の親戚や友人の何人かが新宿に住んでいて、仕送りを送ってくれているそうです。彼女の他の2人のこどもは、おそらく祖母に面倒を見てもらっているか、移民学校の寄宿舎で生活をしているのだと思います。祖母は目が見えないそうです。涙を浮かべながらも話してくれる、そんな彼女の話聞いて涙が止まらなくなった私に「ネバー マインド」と何度も優しく言ってくれました。イスラム教の彼女はアッラーの神が守ってくれているから、お金がなくても大丈夫と。

看護師になってから、患者さんの目の前でこんなに涙を流してしまったのは初めてのことでした。でも、きっとこの病院にはこのような状況の患者さんや家族の方が多くいるのだと思います。私が1年間ここにいることで、1人でもいいから、この病院やこの地域に暮らす人の健康の役に立つことができたら、と改めて強く思いました。

今メータオ・クリニックにはオーストラリアから理学療法士(PT)のボランティアが来ています。彼女はここに来て1年半経つそうですが、PTの仕事(リハビリテーション)以前に、メディクたちにはもっとベーシックな医療の知識と技術が必要だと感じたそうです。メディクは診断と治療のトレーニングを受けてはいますが、ここには看護の概念が存在しません。看護師がいないのです。(医者もいないのですが)。痰を詰まらせて苦しうにしている患者さんがいても放置されていて、窒息死の危険があると。看護があれば、もっとたくさんの命を救うことができるのにと感じたそうです。それがなければPTの訓練どころではないと。そこで、今まで彼女が中心となって、メータオ・クリニックに看護教育のプログラムを取り入れよう準備を進めてきていたとのことでした。その彼女が2月に任期が終了となるため、看護師として新しく来た私に声がかかりました。先週は、外科病棟で彼女と一緒に褥瘡(床ずれ)のできている患者さんの体位変換の必要性をメディクに説明して、これから一緒に実施していくことになりました。褥瘡のことは、鈴木さんのさらに前任の田畑のとき(2~3年前)から問題視されていたようですが、まだまだメディクの意識には根付いていないようです。昨日も「今は忙しいからできない」と言われてしまいました。

メータオ・クリニックに看護を導入して軌道に乗るまでには、何年もかかると思っています。でも、この取り組みがうまくいけば、たくさんの命を救えることができると信じています。

ここメソトに来て、本当にたくさんの人に支えられて活動ができていると心より実感しています。これからの1年間、私なりにできることを進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。





(写真3 : Dr. シンシアと)

## 国内から

【東京＝白壁 彩】

ご無沙汰しております。東京事務局の白壁と申します。いつも温かいご支援をありがとうございます。

前回、会報記事を書かせていただいたのは、今から約2年前で看護学生だった時でした。気が付けば2年目の看護師として日々葛藤しながらも元気に臨床で働いております。月日が経つのは本当に早く感じる毎日です。

2013年の夏、初めてメーソットを訪れたときに感じた何とも言えない感覚は今でも忘れられません。特に印象的だったことの一つは、大量のハエが飛び交うゴミ集積所の中で生活する人々に出会ったことです。劣悪な環境の中で感染していた子どもの足の傷に軟膏をひと塗りすることしかできませんでした。それでも満面の笑顔で手を振ってくれた女の子がいました。幸せってなんだろう？って考えさせられました。それと同時に、誰一人全く同じ人生を歩むわけではない分、その人らしくいられる今が保証されなくてはと無力ながらも思いました。

現在、私は精神科で働いていますが、人々が生きていく中で、心の健康がいかに大切か痛感させられる毎日です。ものやお金があっても満たされずに心が擦り切れる直前になっている方々、DV、トラウマ、いじめ、劣悪な労働環境、家庭環境で生きざるを得ない人びと。様々なバックグラウンドを抱えた方々が今を生きています。WHOの報告によると世界では約100万人の人々が自殺しているといわれています。日本では少なくとも年間約2万5千人の自殺者がいるといわれています。信じられない数の人々が自ら命を落としている現状です。各国の宗教や習慣などの風土の違いや社会状況や歴史的背景により原因は様々ではありますが、日本でも世界でも今後ますます人々のメンタルヘルスが重要になってくるのではないかと思います。

日々、忙殺されそうな日々を過ごす中でいつの間にか自分の人生ではなく、他人の評価の中で人生を生きてしまっている時が誰にでもあると思います。しかし、そのような時代だからこそ、より自分らしく生きることが大切になるのではないかと感じています。予防的な観点も含めながら、あらゆる病とともに生きる人々がその人らしく生きることができるよう、看護師としてできることを探し続けていきたいと思っております。そして、いつか日本だけでなく世界のどこかで支援を必要としている力になりたいとより強く感じています。今は種まきの時期ですが、まずは隣にいる人を大切にするところから始まるのではないかと思います。毎日笑顔でいられることに感謝し、一步一步進んでいきたいと思っております。



## スタディツアーのご報告

【東京＝中村 ひとみ】

平成27年9月7日～12日に開催されたJAMのスタディツアーについてご報告いたします。

今年は学生・社会人を含む9名の参加者が集まりました。日本からの同行者として、当会からは、中村が参加させていただきました。短い期間ではありましたが、参加者の皆様、現地スタッフの鈴木・神谷と一緒にミャンマー難民・移民の現実を知り、問題について考えることができました。

### ◇1日目

バンコクのスワンナプーム空港でスタディツアー参加者の皆様と集合し、ノックエアでメソット空港へ。メソット到着後に早速、国境の橋へ行きました。

赤ちゃんを背負った子供が、お金を要求するように手を伸ばしてきたのが印象的でした。国境を渡る正規のルートはもちろんお金を払って橋を渡ることですが、川を渡って非合法に入国する人も少なくないのだそうです。また、橋のたもとの河原はどちらの国にも属さず、どちらの法で裁かれなため無法地帯となっているとのことでした。



### ◇2日目

午前中はメータオ・クリニックの見学した後、クリニック内にある図書室でシンシア先生からのビデオメッセージを見ました。メータオ・クリニックの見学では、外来の診察室や病棟、義足制作のお部屋などをJAMの現地スタッフに案内していただき説明を受けました。

今回は、残念ながらシンシア先生にお会いすることは出来なかったのですが、ビデオメッセージではシンシア先生のご経験やシンシア先生の考えをお話ししてくださいました。また、参加者さんの質問に対しては副師長さんが答えてくださりました。

午後は、当会代表の小林が合流し、国際地域保健入門のワークショップを実施。リバタリアンとコミュニタリアンについてのお話や、日本人として、また医師・看護師として途上国にてできることとは何かなどを参加者の皆様、JAMスタッフで考えました。

夜は、メータオ・クリニックの元職員で現在は画家のマウンマウンティンさんのお誘いを受けて、ご自宅で料理を振る舞っていただきました。

### ◇3日目

朝、マウンマウンティンさんにビルママーケットを案内していただき、朝ご飯までごちそうになりました。その後、多くの参加された方が関心を持っていた難民キャンプ（メラキヤ





ンプ)へ訪問しました。

国境近くに公式の難民キャンプが設置されてから約30年、キャンプとはいえども、一見普通の村のように感じられました。十分ではありませんが、海外のドナーによって支えられている医療施設や学校、図書館等もありました。少数民族であるために迫害され、祖国ミャンマーから逃れてきた難民の方のほとんどは、まだ環境が十分改善されていないためミャンマーに帰りたくないと考えているのに、ミャンマーは民主化したということでタイ政府は難民をミャンマーに送り返そうとしています。



#### ◇4日目

終日自由行動の日でした。

午前中は約半数の参加者さんがオプションのメソト郡病院の見学に参加されました。郡病院では、まず副院長さんや看護師さん達がパワーポイントを用いて病院の概要や取組について説明してくださいました。その後は、看護師さん数名が、外科や小児科病棟等を案内してくださいました。

また、参加された方の多くが国境の橋を渡り、ミャンマーに入国しました。他にもビルマ人マーケットを楽しんだり、ミャンマー料理教室に参加するなど、それぞれ自分のペースでこの日を過ごせました。

#### ◇5日目

新メータオ・クリニックの見学と移民学校のHOPEスクールとSky blue校の訪問をしました。新メータオ・クリニックはまだ建設中でしたが、とてもきれいで完成を待ち遠しく感じました。この新施設は日本政府も支援をしています。移民学校では日本から持ち寄ったオモチャを使って子ども達と遊びました。子供たちのきらきらした笑顔がとても印象的でした。

そして、午後はゴミ山へ。まず匂いに衝撃を受けました。大量のハエが飛び交い、黒い水たまりができていました。しかし子供たちにとっては遊び場のようで、裸足でゴミ山に登り遊ぶ姿がみられました。工場労働するよりも、努力すれば倍の収入を得られるとの理由から住んでいる方もいらっしゃるそうです。

夜には、他のNGOの方等様々な方々とナイトマーケットで食事をし、たくさんの貴重なお話を聞いたり相談したりすることができました。







#### ◇6日目

最終日はこのスタディツアーの感想や学びを皆で共有しました。自分だけでは気付かなかったことや理解できていなかったところの学びになりました。

来年もまたたくさんの方がこのツアーに参加され、多くのことを感じ、学ばれることを願います。

以上、2015年のスタディツアー報告でした。

## グローバルフェスタに参加しました



去る10月3日(土)、4(日)に毎年恒例となっている、グローバルフェスタ JAPAN 2015に、今年もJAMは出展させていただきました。

<http://www.gfjapan2015.jp/>

JAMの展示ブースでは、JAMの紹介ポスターでJAMの活動を紹介し、現地の民芸品、メータオ・クリニック限定グッズなどの販売を行いました。

3日の午後は、活動報告を行い、スタディツアーの様子について報告し、メソトにいるスタッフともネットをつなぎ、現地の様子についてお話ししました。



今年は、会場が日比谷公園からお台場に変更りましたが、天候にも恵まれ、さらに東京テレポート駅からパレットタウン（お台場の観覧車があるところ）に向かう通り道にブースを構えることができたこともあったせいか、人通りも多く、特に10代、20代の世代が目立ちました。

普段お世話になっている方々や、スタディツアーに参加して下さった方、JAMスタッフの友人・知人、通りすがりに興味を持ってブースに寄って下さった方など、たくさんの方にお越しいただきました。会報やフェイスブック等でお声掛けをしたところ、ボランティアの方々のご協力もあり、無事に終えることができました。ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。ぜひ、来年も出展予定ですのでご都合がございましたら、お越してください。

## 編集後記



さて、この滝は、どこでしょう？



ここは、メソトにある「ジャングルレストラン」というレストランです。  
なかなかおしゃれなレストランだと思いませんか？

ジュラシックパークの植生デザインを手がけた方が作ったお庭とのことです。  
ちょっと高めなんですけどね。

メソトは、ミャンマーとの国境の町ということで、ミャンマーに進出したい企業やタイの田舎町の安い労働者を求める企業、また海外からのボランティアも多く住んでいるので、たまにおしゃれなお店があったりします。



